

フルニエ壊疽の診断・治療に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年12月3日～2021年3月31日

〔研究課題〕

フルニエ壊疽の診断・治療に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕

フルニエ壊疽の原因菌や治療経過を明らかにし、より有効な治療法を開発することを目的としています。

〔研究意義〕

帝京大学医学部附属病院では、泌尿器疾患の原因を明らかにし、正しく診断し、より有効な治療法を開発することを目標として、さまざまな研究を行っています。このような研究活動の基礎になるのが、実際に当科を受診された患者さんの診療録(カルテ)の情報です。患者さんの診療録に記録されている各種の臨床情報、検査結果、治療内容と経過などの医学情報は、病気の解明のために大変貴重なものです。そこで、当科では、過去に当院を受診された患者さんを対象として、診療録に記録されている情報を解析し、患者さんの診療に役立つ情報を取得し、医学の発展に貢献したいと考えています。

フルニエ壊疽(会陰部壊死性筋膜炎)は、生殖器・会陰部・肛門周囲を中心に急速に感染性炎症が波及する、まれで重篤な疾患です。早期に集学的治療がおこなわれても不幸な転帰をたどることがあり、治療に難渋します。本研究では、過去に当院で診療したフルニエ壊疽の患者さんの診療録を調査し、今後の治療の改善に役立つ知見を得ることを目的としています。

〔対象・研究方法〕

2000年1月から2019年9月30日までに帝京大学医学部附属病院泌尿器科・救急科を受診され、フルニエ壊疽の診断となった患者さんが対象です。未成年の患者さんは含みません。診療記録を閲覧し、患者様の個人情報(年齢、性別、身長、体重、既往歴、基礎疾患)を除き、別の番号で匿名化し、背景(年齢、性別、身長、体重、既往歴、基礎疾患)、自覚所見、バイタルサインを含む診療経過、血液尿検査結果、画像診断結果、起炎菌、治療方法(抗菌薬の種類、手術介入の方法とタイミング等)、治療経過(生死を含む最終転帰、入院日数、合併症等)等の医学情報を調査票に記入し、各種の統計解析を行います。研究者は帝京大学医学部附属病院に所属する者に限られます。過去の診療録調査を調査するだけの研究ですので、患者さんの生命・健康に直接影響を及ぼすことはありません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 泌尿器科ならびに救急科

〔個人情報の取り扱い〕

氏名・生年月日・住所・電話番号・ID番号などの個人情報はすべて匿名化されてから解析されますので、個人情報がもれることはありません。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただきます。また、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響はするものではありませんし、研究にご協力していただけない場合でも診療上の不利益を受けることはありません。もし研究対象者に本学学生・教職員が含まれていたとき、研究参加の有無・研究結果は成績や評価とは無関係です。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 中川徹(帝京大学医学部附属病院泌尿器科主任教授)

研究分担者: 山田幸央、高橋さゆり、金子智之、木村将貴、萩原奏、佐々木賢一、坂本昭彦(帝京大学医学部附属病院泌尿器科) 坂本哲也、三宅康史(同救急科)

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [泌尿器科内線 33709]

問 い 合 わ せ 先